

## 第26回北広島市総合計画推進委員会 会議録

日 時	平成30年1月19日(金) 13:30~15:30
会 場	市役所3階 3D会議室
出席委員	鈴木聡士委員長、天羽浩委員、谷本雄司委員、武者加苗委員、桂裕章委員
欠席委員	なし
市出席者	【企画課】橋本課長、柴主査、佐々木主任

### 1. 開会

「委員の過半数が出席していることから、委員会が成立していること」を確認した。

### 2. 会議録署名委員の選出

委員長の指名により、武者委員を第26回推進計画委員会会議録の署名委員としたい旨提案があり、了承された。

### 3. 議事

#### 【議案1】重点プロジェクトについて

※推進計画に掲げる重点プロジェクトの方向性について議論  
事務局より各種事業の概要について説明

#### <重点プロジェクトについて>

◆B委員：市民スポーツ活動推進事業において色々な活動をやっているが、それぞれの活動実績はどうなっているのか。

●事務局：平成28年度実績であるが、スーパードッチボール大会290人、スナッグゴルフ大会23人、30キロ歩ける会141人、いちにのジャンプ大会386人、近隣市3市交流事業316人、インドア子ども相撲大会145人、送迎スポーツトレーニング教室4人となっている。

◆B委員：この事業では、子どもなど具体的なターゲットは決まっているのか。

●事務局：市民を対象に健康づくり、スポーツに親しむ機会をとということで実施している。

◆A委員：生涯学習振興事業について、各地区における生涯学習振興会とはどういうものなのか。

●事務局：生涯学習振興会は、北広島団地地区以外の地区に組織されており、主体となるのは地区町内会や教育関係機関などである。地域で活動をされているいろいろな団体が入った組織になっている。この組織においては地域ごとにありますので、その地域でのコミュニティが形成されており、地域における学習の場など、各振興会が主体となったさまざまな事業が実施されている。各地区にはコーディネーターが配置されており、その方が中心となって地域づくりを進めている。現在、団地地区にはないが、団地地区においても今後のあり方については検討を進めている。

ももとは各地区公民館の運営委員が主体となって進めていたものを、運営委員会の必置制

## 第26回北広島市総合計画推進委員会 会議録

がなくなったことを受け、市民主導の生涯学習振興会に移行していくという背景があり、団地地区以外にはすべて公民館があるので、その土壌を生かした取組が進められているという状況になっている。

◆A 委員：生涯学習振興会に交付金を交付して振興会が自主的な事業をしているというのは見てとれるが、具体的にはどのような活動を行っているのか。

●事務局：公民館を拠点としながら、各地域で家庭菜園講習会や子供向けの科学教室、多世代が交流できるようないろいろなメニューを企画しており、公民館の運営とは別の部分で活動されている。

例えば東部地区生涯学習振興会では、平成29年度に家庭菜園講習会のほか、防災関係、ゴロッキーで交流会、ソフトボール大会、クリスマス時期になればクリスマスに関するフェスティバル、囲碁の教室など、年間を通じていろいろな事業が開催されている。最近の傾向としては、防災という観点から、地域の連携、横のつながりが重要となってくるので、そのような視点もからも取組を進めている

◆A 委員：この事業の予算の内訳は。

●事務局：全体予算の約1,800万円のうち、各地区のアドバイザー4名分の人件費が約1,000万円。振興会に対する交付金が300万円。残り約500万円は振興会に割り振られた事務職員の人件費となっている。

◆A 委員：生涯学習推進アドバイザーにはどのような人が選ばれるのか。

●事務局：生涯学習に詳しい方を選任している。

◆D 委員：図書館サービス提供事業について、市民一人あたりの年間貸出冊数の目標値が平成28年度で9冊とあるが、全道または全国の平均レベルはどのようになっているのか。

●事務局：全道や全国の数字ではないが、当別町及び新篠津村を除く石狩管内で市民一人あたりの年間貸出冊数の高い順で並べていくと、石狩市、恵庭市、北広島市、千歳市、江別市、札幌市の順となっている。

◆D 委員：年間貸出冊数の実績値が減少傾向に見えるが、原因や対策についてはどのように考えているのか。

●事務局：駅前の図書館を核として、各学校も含めてネットワークを形成した活動を行っている。西部地区の小学校は学校図書館ではなくて分館という形で、いわゆる地域の方にも使っ

## 第26回北広島市総合計画推進委員会 会議録

ていただけるような形で学校内に図書館を設けている地区もある。また、幼稚園、保育園での図書の普及にあたり、「まちなか司書」ということで司書を増やし、図書に触れ合う機会を作っていこうとする議論も進めている。

◆委員長：総合計画を進めていく中で、例えば人口を上昇させましようとなったときには、「教育」は非常に有効な取組であるというのが見えてくる。ぜひ積極的に進めていただきたい。

●B委員：文化活動団体支援事業について、北広島市文化連盟と北広島市音楽協会はどのような活動をしているのか。また、市民文化祭奨励事業について、総合文化祭、地区文化祭ではどのようなことを行っているのか。

●事務局：北広島市文化連盟は、芸術文化ホールのギャラリーにおいて作品展などを行っている。北広島市音楽協会は、芸術文化文化ホールで市民音楽祭などを開催している。地区文化祭はその地区の小学生が、劇や踊りを披露するなど地区の方々の文化的な取組を披露する場となっている。総合文化祭は、そのようなイベントを全市的な取組で開催しているものである。

◆B委員：これらの事業は、人づくりという観点から見ると、どう役立っているのか。現在実施されている内容はそれで良いと思われるが、人づくりという面からいけば、つなげる役割を果たす人が必要だと感じる。

●事務局：人の役割というよりも、市として生涯学習として地域でどのような活動が行われているのかは、全ては把握しきれていない。誰でもわかるような仕組づくりを担当課とも検討を進めたい。

◆D委員：時期的なものだと思うが、先月は図書館で高校生がすごく勉強しており、部屋も満席だったので、中高生の勉強の場を提供する意味でも図書館は生涯学習的な面もあるのではないかと思う。

●事務局：図書館に一日中いる方もいると聞いている。図書館で魅力のあるものがあれば参加するかもしれないし、もっと中高生向けに図書館を使って何かをするという仕掛けもできるかもしれない。図書館については色々な意見が出てくると思っている。

◆B委員：高校生は自分の勉強をしているだけで、ここの図書サービス提供事業の目的には含まれていないということか。

●事務局：基本的に図書館に付随する自習室は、資料を活用して色々勉強していただく場という位置付けになっている。

## 第26回北広島市総合計画推進委員会 会議録

◆委員長：図書館は図書館だけの話というわけではなくて、総合計画的にどうなるかという所の部分で、全体の枠組みの中で交流人口を増やしましょう、魅力がありますよといった情報発信は、図書館で勉強している高校生や高齢者にも必要だと思う。

●C委員：男女共同参画推進事業について、平成30年度にワーク・ライフ・バランスの意識調査を5年ごとに行うとなっているが、これは初めての試みか。

●事務局：これまでも5年ごとに市民を対象とした意識調査を行っているが、現在の「第2次きたひろしま男女共同参画プラン」が平成32年度までであるため、次の計画を見直すタイミングを考えると、アンケートの内容をより計画に反映させるためには、平成31年度に行うことが適切ではないかという点も含め検討している。

◆C委員：男女共同参画推進事業について、平成29年度に男性従業員の育児休業取得を促進する制度についても取り組んだとのことだが、申請実績はあるのか。

●事務局：男性の育児休業について、平成29年10月に市内の中小企業に勤務する男性労働者が育児休業を取得した場合に、事業者に対し助成金を交付する制度を創設した。助成額は30万円となっている。申請はまだないが問い合わせは数件あった。また、関連して市内の中小企業業者がワーク・ライフ・バランスの推進として、例えば会社内で研修を行ったり、専門家を招聘し就業規則を見直したりした場合、限度額10万円として経費の2分の1を補助する制度も同時に創設した。こちらの制度についても、まだ実績はないが問い合わせはあり、実際に制度を利用したいという声もいただいている。

◆B委員：もし助成するとなった場合、市として企業の取組を紹介することで、企業にとってもアピールにつながるのではないか。

●事務局：企業としてのコメントをいただければ、それを上手く発信することで自社のアピールにつながり、また市の取組を伝える手段にもなるものと考えているので、申請される企業にはそのようなお願いも併せて行っていきたい。また、30万がどういう形で使われていくのかということも追跡できればと考えている。

そもそも市がなぜ今ワーク・ライフ・バランスに取り組むかということ、総合戦略を作る際に審議会の中で、男性の働き方を見直す必要があるというご意見があり、制度を設計する際の参考として平成28年度には市内の事業者を対象にアンケート調査を行った。ハード的な要望も多かったが、それと同じように情報提供や支援制度に対するニーズも比較的高かったことから、事業者とヒアリングを重ねながら昨年度から実施した。

◆委員長：意識を変えることが必要だと思う。こういう実績が続いていくと周りの意識が変わっていくと思う。ヨーロッパなどは育児休業は取って当たり前なので、そういうことを変えて

## 第26回北広島市総合計画推進委員会 会議録

いくことが大事である。

◆委員長：男女共同参画推進事業について、事業費の中で、国庫支出金が平成28年に2,145千万円とあるが、補助金などがあったのか。

●事務局：総合戦略に関する取組については国から交付金が出る仕組みになっている。

〈これまでの議論を踏まえた重点プロジェクトの方向性〉

事務局より重点プロジェクトの方向性について説明

◆委員長：基本的な方針、枠組みなどはいいいところがきちんと組み込まれていて、非常に大事な部分だと思う。これから人口がどんどん減っていく中で、良いまちづくりをして外から人を呼び込みましょうという時には、当然子育てというところがすごく大事になってくる。

今住んでいる市外から、例えば北広島市民になりたい、という時にどんな要因で決めたのかを聞いてみると、教育が効いてくるなどいろいろと分析をしてみte感じた。

北広島市は札幌管内で非常に良い教育をやっているというふう外部からもしっかり評価されるように進めていくことが大切だと思う。

また、産婦人科の話もあったが、実際には札幌に行ってしまうということが実情であるのであれば、北広島市というまちの位置付けとして実質的に何が求められているのかということ、札幌の病院への交通費の助成などのほうが需要が高いようなものもあるので、何が一番これから必要なのかということ、もう一度ゼロベースで考え直していくことが求められていると思う。

●B委員：現在の総合計画は10年計画だが、今度も10年計画か。

●事務局：踏襲するのであれば10年ということになるかもしれないが、10年でいいのかということも含めて考えていかなければならないと考えている。

●B委員：目標はあるが、それに向かって3年計画、5年計画など変えていくようにしないと。

●事務局：そういうことも含めて委員会で考えていきたい。

◆委員長：バランスを取るのが難しい。3年でどんどん変わっちゃうと方向性がグラグラしてしまうので、ある程度大枠の方向性は10年くらい必要なかもしれない。総合計画にはそれに向かってみんなで頑張っていくといった大枠の目標がないと、どっちに進んでいっていいかわからなくなる。ただ、カチッと決まり過ぎると時代にしっかり合わせられないので柔軟性を持ちつつ、でもある程度みんなで一定の方向に向かって頑張っていきたいというある種の方向、ベクトルをしっかりと示すという意味で、総合計画は大事だと思う。

◆A委員：子どもの教育は子育て・人づくりプロジェクトの(2)「健やかな子どもの教育」にな

## 第26回北広島市総合計画推進委員会 会議録

---

っている。先ほどの説明だと、子育て・人づくりプロジェクトの(3)「いきいきとした人づくり」の生涯学習では子供も含むという説明だったが、その境界がよくわからない。(3)は高齢者という位置付けのほうがわかりやすいのではないかという印象がある。

◆委員長：子育て・人づくりプロジェクトの3本柱はバランスがよく、生まれてからしっかり学習しましょうという、ある意味しっかり網羅されているのかなという感じがする。子育てと教育は本当に市外から人を呼び込むのに大事になってくるので、個人的には教育に是非力を入れて欲しい。なかなかすぐに成果は出ないが、じわじわと確実に効果がある事業だと思っているので、しっかりそういったものを位置付けていくのが大切だと思う。

#### 4. その他（次回開催日程についてなど）

<事務局より説明>

#### 5. 閉会

会議録署名委員

---